



4月7日

37人の新入団員を迎えた辞令交付式

まきがね公園体育館で、37人の新入団員を迎え、市消防団辞令交付式が行われました。

式典では、新入団員を代表して中野方分団の鷺見拓也さんが新入団員の辞令を受け「忠実に消防の業務を遂行することを厳粛に誓います」と宣誓しました。

小坂市長は「自然災害に対する消防団への期待は高まっています。市としても地域の防災力の向上に取り組んでいきます」と式辞を述べました。

安藤消防団長は「自分たちの地域は自分たちで守る気持ちでがんばってください」と訓示しました。



4月2日

円滑な災害復旧に向けた協定

市と岐阜県東部電気工事協同組合は、災害時における電気設備等の復旧に関する協定を締結しました。

これは、災害などが発生した場合の応急対策や復興対策を円滑に実施するための協定で、市ではこの他46件の災害に関する協定が締結されています。

小坂市長は「災害時の対応は、行政だけでなく、事業所さまの力を借りなければできません。この協定が市民の皆さんの安心・安全につながります」と述べました。

今後は災害が発生した場合、同組合に公共施設の電気設備の復旧活動などを支援、協力していただきます。



3月30日

光秀ラッピング列車いざ出陣

明智光秀が主人公となる大河ドラマ「麒麟がくる」を契機として市の魅力を発信するため、明知鉄道に光秀ラッピング列車が登場しました。デザインは、公募で選ばれた名古屋市のデザイナー、柳野和久さんの作品。戦国時代の戦乱を赤と金の波模様で表現し、麒麟が浮世絵風のイラストで配置されています。

出発式では、テープカットの後、市長の「いざ、出陣じゃ!」の声に合わせ、ほら貝が鳴り響きました。出発を見送った来場者らは「いってらっしゃい」と声を掛け、乗客と手を振り合っていました。列車は、令和3年3月ごろまで運行する予定です。



3月23日

二葉こども園・長島こども園が閉園

おさしま二葉こども園の開園に伴い、二つのこども園が閉園しました。それぞれの園では、保護者会が中心になって企画し、閉園式が行われました。

両園とも、合唱やスライドショーの上映、和太鼓奏者の加藤拓三さんによる太鼓の演奏などが行われました。その後、園児と保護者は、一斉に風船を空に放ちました。

園児らの元気な声に包まれ、二葉こども園は大正13年から94年、長島こども園は昭和29年から64年の歴史に、幕を下ろしました。4月から両園の園児は、おさしま二葉こども園で新しい歴史と一緒に作っていきます。



4月16日

栗の六次産業学習をさらに進める

県立恵那南高等学校活性化に係る三者連携協力に関する協定書調印式が行われ、恵那南高校、株式会社恵那川上屋、市が協力を確認しました。

同校では、平成28年からの三者協定により、地域の特産物である栗を素材とした6次産業学習を行ってきましたが、今回、改めて協定が結ばれたことで、さらに学習を進めていくことができます。

今後は、栗を使用した受験者応援スイーツなどの企画・開発や、マーケティング実習の強化、地元の喫茶店の協力による高校生の開発したワンプレートスイーツ販売実習など、新たな取り組みを行います。



4月6日

恵那峡で春を満喫

4月6日(土)から7日(日)の2日間、恵那峡さざなみ公園で、恵那峡にぎわい実行委員会の主催による「恵那峡さくらまつり」が開催されました。

市茶道連盟が抹茶と和菓子を提供する「恵那峡さくら茶会」や、恵那峡周辺の事業者らが地元特産品などを販売する「えなマルシェ」があり、多くの来場者でにぎわいました。2日間とも天気にも恵まれ、穏やかな陽気の中、花見を楽しむ姿が見られました。

6日からはライトアップも行われ、訪れた人たちは幻想的な夜桜の風景に見入っていました。



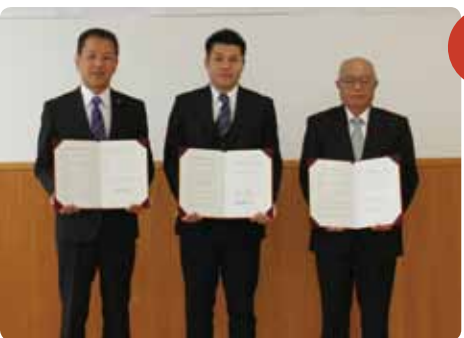
3月30日

宵の城下町に幻想的な明かり

岩村町本通りとその周辺での「第17回いわむら城下町のひなまつり」の一環で、「宵のひなまつり」が開催されました。

日が沈み始めたころ、岩村小学校の児童が描いたひな人形などの絵がぐりと巻き付けられた、約250本の灯籠が本通りに並べられ、一つずつ明かりがともされました。

この日は気温が低く、冷たい雨が降りしきるあいにくの天候でした。訪れた人たちは傘を手にしながらも、灯籠の幻想的な光が夜の城下町を照らし出す様子に、立ち止まったり、写真を撮ったりして、見入っていました。



3月28日

高齢者見守り活動の輪が広がる

市は高齢者の見守り活動協定を、株式会社バローホールディングス(多治見市)と株式会社旨味屋クラブ(瑞浪市)の2事業者と締結しました。

この協定は、事業者が高齢者宅への訪問などの業務を通じて、高齢者の安否確認を行い、異常を発見した場合に市へ連絡することで、認知症や行方不明、孤独死などといった問題の早期発見や必要な支援につなげるもの。今回の協定で、市の協定先は25社になりました。

小坂市長は「お互い持っている情報を共有して助け合えるようになり大変ありがたいです」と、感謝の言葉を述べました。